

最近の調剤医療費（電算処理分）の動向
平成 29 年 12 月

○ 概要

- (1) 平成 29 年 12 月の調剤医療費（電算処理分に限る。以下同様。）は 6,848 億円（伸び率（対前年度同期比、以下同様。）+3.3%）で、処方せん 1 枚当たり調剤医療費は 9,392 円（伸び率+3.5%）であった。（→P.1~2）
調剤医療費の内訳は、技術料が 1,696 億円（伸び率+2.1%）、薬剤料が 5,141 億円（伸び率+3.7%）で、薬剤料のうち、後発医薬品が 945 億円（伸び率+19.2%）であった。（→P.4）
- (2) 薬剤料の多くを占める内服薬の処方せん 1 枚当たり薬剤料 5,719 円（伸び率 2.9%）を、処方せん 1 枚当たり薬剤種類数、投薬日数、1 種類数 1 日当たり薬剤料の 3 要素に分解すると、各々 2.86 種類（伸び率▲1.3%）、24.0 日（伸び率+4.1%）、83 円（伸び率+0.2%）であった。（→P.8,9）
- (3) 薬剤料の多くを占める内服薬 4,170 億円（伸び幅（対前年度同期差、以下同様。）+113 億円）を薬効大分類別にみると、総額が最も高かったのは 21 循環器官用薬の 860 億円（伸び幅▲28 億円）で、伸び幅が最も高かったのは 39 その他の代謝性医薬品の+49 億円（総額 618 億円）であった。（→P.10）

年齢区分 (→P.10~15)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	4,170 億円 (+113 億円)	21 循環器官用薬 (860 億円)	11 中枢神経系用薬 (737 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (618 億円)
0 歳以上 5 歳未満	42.3 億円 (▲2.3 億円)	44 アレルギー用薬 (17.5 億円)	61 抗生物質製剤 (9.2 億円)	22 呼吸器官用薬 (6.6 億円)
5 歳以上 15 歳未満	101 億円 (▲1.5 億円)	44 アレルギー用薬 (37.5 億円)	11 中枢神経系用薬 (19.9 億円)	61 抗生物質製剤 (13.6 億円)
15 歳以上 65 歳未満	1,449 億円 (+28 億円)	11 中枢神経系用薬 (319 億円)	21 循環器官用薬 (260 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (230 億円)
65 歳以上 75 歳未満	1,012 億円 (+8 億円)	21 循環器官用薬 (254 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (182 億円)	11 中枢神経系用薬 (124 億円)
75 歳以上	1,566 億円 (+81 億円)	21 循環器官用薬 (343 億円)	11 中枢神経系用薬 (273 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (201 億円)

- (4) 処方せん 1 枚当たり調剤医療費を都道府県別にみると、全国では 9,392 円（伸び率 +3.5%）で、最も高かったのは石川県（11,256 円（伸び率 3.2%））、最も低かったのは佐賀県（7,866 円（伸び率+1.9%））であった。
また、伸び率が最も高かったのは秋田県（伸び率+6.0%）、最も低かったのは沖縄県（伸び率+1.2%）であった。（→P.27~28）

《《後発医薬品の使用状況について》》

【後発医薬品薬剤料】 945 億円（伸び率：+19.2%、伸び幅：+152 億円）（→P.36~37）

【後発医薬品割合】（→P.35）

	後発医薬品割合	伸び幅
数量ベース（新指標） ^注	70.9%	+3.0%
薬剤料ベース	18.4%	+2.4%
後発品調剤率	70.7%	+2.4%
（参考）数量ベース（旧指標）	48.6%	+3.5%

注）〔後発医薬品の数量〕 / （〔後発医薬品のある先発医薬品の数量〕 + 〔後発医薬品の数量〕）で算出。

【後発医薬品 年齢階級別】（→P.37）

	全体	最高	最低
後発医薬品薬剤料の伸び率	+19.2%	+26.7% (0 歳以上 5 歳未満)	+7.8% (15 歳以上 20 歳未満)
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.4%	19.8% (65 歳以上 70 歳未満)	11.6% (10 歳以上 15 歳未満)

【後発医薬品（内服薬） 薬効分類別】（→P.38~44）

年齢区分 (→P.38~44)	内服薬 総額 (伸び幅)	総額順（総額）		
		1 位	2 位	3 位
全年齢	841 億円 (+139 億円)	21 循環器官用薬 (271 億円)	23 消化器官用薬 (121 億円)	11 中枢神経系用薬 (91 億円)
0 歳以上 5 歳未満	9.4 億円 (+1.9 億円)	44 アレルギー用薬 (3.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.1 億円)	61 抗生物質製剤 (1.6 億円)
5 歳以上 15 歳未満	18.4 億円 (+3.3 億円)	44 アレルギー用薬 (9.4 億円)	61 抗生物質製剤 (3.5 億円)	22 呼吸器官用薬 (3.1 億円)
15 歳以上 65 歳未満	283 億円 (+47 億円)	21 循環器官用薬 (79 億円)	11 中枢神経系用薬 (40 億円)	23 消化器官用薬 (35 億円)
65 歳以上 75 歳未満	213 億円 (+36 億円)	21 循環器官用薬 (87 億円)	23 消化器官用薬 (29 億円)	39 その他の代謝性 医薬品 (21 億円)
75 歳以上	318 億円 (+50 億円)	21 循環器官用薬 (104 億円)	23 消化器官用薬 (56 億円)	11 中枢神経系用薬 (37 億円)

【後発医薬品 都道府県別】（→P.57~62）

	全国	最高	最低
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料	1,296 円	1,721 円（北海道）	1,077 円（佐賀県）
処方せん 1 枚当たり後発医薬品薬剤料の伸び率	+19.3%	+24.0%（富山県）	+14.8%（鹿児島県）
新指標による後発医薬品割合（数量ベース）	70.9%	81.2%（沖縄県）	63.2%（徳島県）
後発医薬品割合（薬剤料ベース）	18.4%	22.8%（鹿児島県）	15.8%（徳島県）
後発医薬品調剤率	70.7%	80.7%（沖縄県）	64.7%（山梨都）
（参考）旧指標による後発医薬品割合（数量ベース）	48.6%	58.9%（沖縄県）	43.7%（徳島県）

〔利用上の留意点〕

分析対象レセプトの特徴

- 審査支払機関（社会保険診療報酬支払基金及び国民健康保険団体連合会）において、レセプト電算処理システムで処理された調剤報酬明細書のデータを分析対象としている。
- 平成 29 年 12 月現在の電算処理割合は、処方せん枚数ベース、医療費ベースともに約 99%である。